

HPVワクチン東京訴訟 支援ネットワークニュース

No.5 2018年3月5日

HPVワクチン東京訴訟支援ネットワーク

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-17-10 エキニア池袋6F

城北法律事務所内

ホームページ：<http://hpv-yakugai-shien.net/>

Facebookページ：<https://www.facebook.com/hpvv.yakugai.tsn/>

E-MAIL：hpv_shien@yahoo.co.jp



バレンタインデー宣伝

2月14日のバレンタインデー。

この日、HPVワクチン薬害訴訟の東京地裁での第5回弁論が行われた。

支援ネットワークでは弁論前に、14名の学生を中心に30数名が参加し、有楽町駅前（マリオン前）で宣伝を行った。

「大切なのは恋人だけですか？」

そう書かれたビラに小さなチョコレートを付けて道行く人に配った。



ビラの受け取りは比較的よく300枚用意したビラは小一時間で配り終えてしま

った。バレンタインデーを恋人と過ごすこともできずに、薬害の被害に苦しんでいる少女たちがいることが少しでも、国民の間に伝わってほしい。そう願わずにはいられないバレンタイン行動でした。 牟田 しずか（支援ネットワーク）



苦しんでいる少女がいることを多くの人に知ってもらえた

江戸川大学の学生もこの日の街頭行動、裁判傍聴、原告との交流会に参加しました。学生たちの感想の一部を紹介します。

日高那侑（2年生）

ビラを貰ってくれる人はそれほど多くありませんでしたが、中には詳しく話を聞かせてと興味を持ってくださる人もいました。自分がマイクを通じて訴えることで、ワクチン薬害に苦しんでいる少女がいることを多くの人に知ってもらえた気がして、またこのような行動に参加したいと思いました。

井上翔太（2年生）

ビラ配りは初めての体験。もちろん街頭演説もです。

私が渡したビラをきちんと手に取ってくれる方が何人もおり、やりがいを感じました。また被害者の方や家族との交流では、厳しい現状の中で全力で生きていらっしゃる事がわかりました。被害者がきちんと救済され

大切なのは恋人だけですか？

ワクチン接種後に体調を崩して医師からの説明が納得できず、十分な説明を受けたにもかかわらず発生した被害者がいます。

「大切なのは恋人だけですか？」というメッセージを、大切な人へ配っています。

彼女たちは今日、バレンタインデーも苦しんでいます。

本日2月14日は、HPVワクチン薬害東京訴訟の第5回弁論期日です。

本日2月14日、東京地方裁判所において、薬害訴訟の第5回弁論期日が開催されます。

ぜひ、足をお運びください。	
14時00分	裁判所2階207号法廷（ビルコート207）
14時30分	裁判所3階307号法廷（3階）
15時00分	赤い広場（伊豆坂）100号ビル
16時00分	有楽町駅前（伊豆坂）100号ビル
17時00分	有楽町駅前（伊豆坂）100号ビル

HPVワクチン薬害訴訟とは？

2012年、接種を受けた少女が体調を崩して医師からの説明が納得できず、十分な説明を受けたにもかかわらず発生した被害者がいます。この訴訟は、接種を受けた少女が体調を崩して医師からの説明が納得できず、十分な説明を受けたにもかかわらず発生した被害者がいます。この訴訟は、接種を受けた少女が体調を崩して医師からの説明が納得できず、十分な説明を受けたにもかかわらず発生した被害者がいます。

る事を願っています。



和田美菜海（1年生）

チョコレートとピラを袋に入れる準備作業から始まり、ピラ配りや裁判の傍聴、報告集会など初めての体験でした。なかなか大変だったけれど、とてもいい経験ができました。HPV ワクチン薬害について詳しく知らなかったの、報告会や交流会で同年代の被害者がこれほど多くいることに驚き、家族、弁護士さんにも話を聞いてとても良かったと思います。

増田朱音（1年生）

自分も受けた HPV ワクチンによってこんなに苦し

んでいる人がいるなんて知らなくて、とてもショックでした。人を救うためのはずのワクチンが、これほど重い障害を与えるなんてことは、あってはならないと思います。多くの人にこの事実を知ってもらい、一刻も早く国や製薬会社に責任を取ってもらいたいと思いました。

池谷明日香（1年生）

私も中学の頃、学校から HPV ワクチンを打つように言われ3回接種しました。そのワクチンの接種後の症状に苦しんでいる同年代の女の子がこれほどいることは、とても心苦しく思います。ピラ配りで私は、なるべく女性や子供連れの方に受け取ってほしくて意識して配っていました。でも同年代の若い女の人はあまり貰ってくれず、残念でした。一方チョコレートの効果なのか、男性がピラを受け取ってくれることが多かった気がします。今回の活動を通じて、HPV ワクチン薬害で苦しんでいる人がたくさんいて、バレンタインデーも症状と闘っているということを知ってもらえたと思います。活動に参加できたことは、貴重な経験でした。

元気な体に治してもらうため、裁判に参加

東京地方裁判所 103号法廷での口頭弁論、はじめに原告15番の方が、しっかりとした声で意見陳述をしました。続いて安孫子理良弁護士が、企業側がワクチンを安全とする研究の不備と、WHOとワクチンメーカー等との利益相反関係について簡潔にまとめて陳述しました。

原告さんの訴えを要約してお伝えします。

1 はじめに

私は高校2年生です。

幼少時から活発で、走り回るのが大好きでした。

2 接種

中学校入学後の5月、ガーダシルの1回目の接種をして、7月に2回目の接種をしました。

3 副反応

(1) 副反応に気づいたこと

2回目の接種から2日後、腕の痛みが出て、体が重く上手く歩けず、ラーメンを飲み込むことができませんでした。

片足で体を支えることができなくなり、はって自分の部屋がある2階へ行きました。

翌日、病院を受診し、緊急入院となり、検査をし「子宮頸がんワクチン副反応の疑い」と言われました。

(2) 中学校生活

中学1年の秋、痛みと怠さに耐えられず、ベッドから起き上がれず、学校に行けなくなりました。

腕が引き抜かれるような痛みや、骨が引き抜かれるような痛みが出ました。

中学1年生の後期から2年生の後期まで、1か月に2〜3日しか出席できませんでした。

中学3年生からは1日数時間ですが、登校しました。

(3) 高校生活

高校は、通信制です。毎日通学しなくてはならない全日制高校は諦めました。

記憶能力が落ち、勉強は難しいです。

今の状態では大学進学は難しいと思っています。

4 現在の症状と生活

関節の痛み、運動障害、重度の倦怠感、生理痛、短期的な記憶障害等と戦っています。

病院には、主治医の先生の診察とリハビリで、ほぼ毎週通院しています。

5 私の願い

私は、元気な体に治してもらうために、裁判に参加し

ました。裁判で、子宮頸がんワクチンの副反応を認めてもらい、治療法を見つけてほしいです。

体が治ったら、私にはやりたい事がたくさんあります。一番やりたいのは、もう一度全力で走る事。バスケットもしたい。友だちと放課後に遊びたい。友達と旅行にも行きたい。柔道もやりたい。二十歳になるまでに体を治して、成人式で、元気な体を見せて友達を驚かせたい。

今までも、たくさんの方々のおかげで、私は今ここにいます。私たち被害者を助けてくれる大人がいることを、信じています。



国際シンポジウム 世界のHPVワクチン被害は今

HPVワクチンによって深刻な被害が発生し、社会問題化しているのは日本だけではありません。集団訴訟が提起されているコロンビアを始め、スペイン、英国、アイルランドの被害者団体からゲストを迎え、被害実態、医学界や政府の対応、被害者の活動などを共有し、問題の本質や被害救済について議論します。

ぜひご参加ください。

■日時 2018年3月24日(土) 13:30~17:30 (13:00開場)

■会場 東京大学本郷キャンパス 武田先端知ビル 5F 武田ホール

■同時通訳付・事前申込不要・資料代500円

<プログラム>

- ・各国からの報告
- ・パネルディスカッション

主催：薬害オンブズパーソン会議

<http://www.yakugai.gr.jp/topics/topic.php?id=946>



ミニゼミ in 東京

HPVワクチン薬害被害を学ぶ

2月16日午後、IKE・Bizとしま産業振興プラザで、23名が集い学習交流会を持ちました。薬学生 11名、薬剤師 5名などが参加しました。

はじめに関口弁護士から、スライドを使って被害の概要と問題点、救済への道について説明をうけました。学生から、副反応発症率の評価について質問もありました。

国際シンポジウム
世界のHPVワクチン被害は今
2018年3月24日(土) 13:30~17:30 (13:00開場)
東京大学 武田先端知ビル5F武田ホール 同時通訳付・事前申込不要・資料代500円

HPVワクチン(子宮頸がんワクチン)によって深刻な被害が発生し、社会問題化しているのは日本だけではありません。本シンポジウムでは、集団訴訟が提起されているコロンビアを始め、スペイン、イギリス、アイルランドの被害者団体からゲストを迎え、被害実態、医学界や規制当局の対応、被害者の活動などを紹介し、議論します。

第1部 各国からの報告
HPVワクチンの基本的問題点と日本の現状 水口真由美
薬害オンブズパーソン会議事務局長、HPVワクチン被害訴訟全国弁護団代表
コロンビアからの報告 **Monica Leon Del Rio**
"Rebuilding Hope Association HPV Vaccine Victims"代表、集団訴訟代理人弁護士
スペインからの報告 **Alicia Capilla**
"Association of Affected People due to the HPV vaccines in Spain" (AAVP) 代表
イギリスからの報告 **Mandeep Badial**
"UK Association of HPV Vaccine Injured Daughters" (AIVID) 科学部門担当
アイルランドからの報告 **Anna Cannon**
"Reactions and Effects of Gardasil Resulting in Extreme Trauma" (REGRET) 広報担当
(※各国からの報告者は、いずれの方も実名の姓です)

第2部 パネルディスカッション
パネリスト 第1部報告者ほか
コーディネーター 薬害オンブズパーソン会議メンバー
主催・同合せ先 薬害オンブズパーソン会議
電話: 03-3356-0807 <http://www.yakugai.gr.jp/>





お母さんから、「ヴァイオリンを弾く一方で、運動大好きで、剣道でも相当の腕前だった」という説明のあと、伊藤維さんから複数の副反応症状が重なる被害の厳しさ、後になって歩けなくなり学業・ヴァイオリン演奏でつらい状況になっても、前向きに生活していることを伝えていただきました。

交流では、HPVワクチンを接種した女子学生も複数いて、涙ぐみでの感想が続きました。参加者から「何ができるか」という質問に、伊藤さんからは、話を聴いてくださること自体が力になるとの返答をいただき、関口弁護士からは、「帰ったら、友達にこの経験を話してください」とのメッセージをいただきました。

参加者が、深い感銘を受けた学習会でした。



子宮頸がんワクチンを考える 公開学習会

子宮頸がんワクチン問題や薬害訴訟について
学生が中心になって学ぶ会を開きます。

前半を学習会、その後交流会を予定しています
お気軽にご参加ください。

日時：2018年4月21日(土) 15時～17時半

場所：中央大学駿河台記念館 360教室 (JR御茶ノ水駅 徒歩3分)

参加費：無料

参加登録はこちらから⇒ <https://goo.gl/forms/j7dUqHYZsLS3ChHp1>

主催：薬害根絶デー学生実行委員

共催：HPVワクチン東京訴訟支援ネットワーク

子宮頸がんワクチンを考える 公開学習会

主催：薬害根絶デー学生実行委員
共催：HPVワクチン東京訴訟支援ネットワーク

子宮頸がんワクチンについて知っていますか？
いま、このワクチンを接種したことによる被害を訴える
10～20代の女性たちが全国で立ち上がっています。

彼女たちには応援が必要です。
まずは知ることから、彼女たちの声に耳を傾けてみませんか。
当日は被害を受けた方や支援者、弁護士を招いて
子宮頸がんワクチン問題や薬害訴訟について
学生が中心になって学ぶ会を開きます。
(前半を学習会、その後ワークショップ形式の交流会を予定)
お気軽にご参加ください。

日時：2018年4月21日(土)15時～17時半
場所：中央大学駿河台記念館360教室
(JR御茶ノ水駅 徒歩3分)

参加費：無料

参加登録はこちらから
⇒<https://goo.gl/forms/j7dUqHYZsLS3ChHp1>

連絡先 薬害根絶デー実行委員会
E-mail: yakugakonzetsu@gmail.com
写真は昨年の学習会時の様子



● 第4回 支援ネット例会のご案内

日時 2018年3月15日(木) 18:30～20:30

場所 城北法律事務所 (池袋駅西口すぐ)

<http://www.jyohoku-law.com/office/accessmap.html>

支援ネットへ 入会をお願いします

● 入会申込み WEB 入力フォーム

<https://goo.gl/forms/IJmdrsiNu4EkaELO2>

● 会費送金先 年会費は1口1000円以上(任意)

- ・郵便振替 記号番号 00140-7-696944 HPV ワクチン東京訴訟支援ネットワーク
- ・ゆうちょ銀行 店番 018 口座番号 8055797 (普通預金)



子宮頸がん予防をめざして接種した
HPVワクチンは、たくさんの薬害被害
を発生させました。全身の痛み・震
え・歩行困難・感覚過敏・記憶障害な
ど様々な症状が重なり、今でも苦しむ
被害者がいます。

2013年に接種の積極的勧奨が中止にな
りましたが、国と製薬企業は責任を認
めていません。被害者は、健康な体
を取り戻すことと原因説明・賠償・再発
防止を求めて、2016年7月から、東
京・名古屋・大阪・福岡で裁判を続け
ています。